

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401699		
法人名	有限会社 なごみ会		
事業所名	グループホーム 諏訪の里		
所在地	長崎県南島原市深江町丁1520番地		
自己評価作成日	平成 30年 12月 28日	評価結果市町村受理日	平成 31年 3月 13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 31年 2月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

仰げば普賢岳、眼下には有明海の大海原が広がり風光明媚な場所に位置し、車の通りの少ない散歩コースにも恵まれている。
お天気やその日の体調に合わせ、出来るだけ外への散歩を行うことにより、地域の方々とのふれあいもあり”ホームの人”ではなく地域の方々と同じ住民であることを隔たりなく理解して下さる事を切望している。
家族の方の同意を得ながら、市の行事や祭事など何処にでも連れ出し、ノーマライゼーションの浸透にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは眼下に有明海や対岸の熊本を、背後には勇壮な雲仙普賢岳を臨むことができる場所に位置している。管理者は、職員は財産であるとの思いを持ち、職員一人ひとりの声に耳を傾けながら人材育成に取り組んでいる。ホームでは、地域の方から一人住まいの方への対応方法についての相談や入居者家族からも随時相談を受けるなど、広く対応されていることが窺える。訪問調査時には、数名の入居者が豆茶(ハブ茶)の種取りを行い、その豆を煎って入居者と職員とで普段飲用するお茶として提供されていた。ホームの事務管理ではセキュリティー対策を行い、クラウドサービスを活用して食事・排泄・体温・血圧等の情報を一元化し、職員はID入力でスマートフォンでも確認ができるように取り組まれている。運営推進会議の開催時にあわせて避難訓練を実施することで出席者にもホームの取り組みを経験していただくなど、入居者を安全に支援する様子が窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット名
グループホーム諏訪の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『地域の中で輝き共に生き支えあえる環境づくり』を理念として掲げ、個々の出来ないところをさりげないサポートで自立を助けることを実践している	職員はホーム理念をもとに、日常生活の中で入居者への声掛けやできることとできないことを見極めるよう努め、その方に合った支援の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幸いにも近隣の方々のご理解も年々深まり、気軽に声かけをして頂いたり、近隣の散歩へ出掛けると農作業の途中でも、手を止めて話しかけて下さる。また収穫された物をご好意により頂戴することも有る	ホームは自治会への加入はないものの、近隣の方の入居が多いこともあり、民生委員や地域住民の協力が得やすくなっている。散歩の際の近所の方との挨拶や野菜をいただくなど、地域に根差した事業所であることが窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の方を多くお預かりしていることもあり、地域の皆さんの相談をお受けすることもある 自治会長さんや民生委員の方と連絡をとりあったり支援方法を一緒に考えた実績もある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	リハビリやカラオケまた、避難訓練や行事へも一緒に参加してもらうことで、実際に活動している状況を把握した上で、ご理解やご協力を頂き、意見交換を行っている	運営推進会議は、出席可能な家族や地元に住まう民生委員などの参加があっている。会議ではホームの近況や入居者状況を報告するほか、避難訓練を実施しホームへの理解が得られるような取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	島原半島GH連絡協議会を中心に、特に南島原支部での相互の情報交換なども行い、協力体制に取り組んでいる	運営推進会議には行政の方の参加があり、出席の際にホームの様子を伝え理解に繋がるとともに、各種研修会についての情報をいただくなど協力関係の体制づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対的に拘束をしない方針でケアの実践を行っている。たとえ、暴力行為などをスタッフが受けても落ち着かれるまで目を離さず身体拘束のないケアをしている。言葉遣いにも配慮している	現在、ホームでは身体拘束ゼロに取り組んでおり、運営推進会議の際に入居者の身体拘束の状況を伝え、参加者へのホーム対応の報告がなされている。尚、一部の入居者については排泄介助の折につなぎ服の使用はあるが、拘束に該当するものではないとの認識で関わりが持たれている。また、年間の研修計画に身体拘束の予定はあるものの、具体的な内容の記録が確認できなかったため、研修内容や身体拘束適正化に向けた書類の整備が今後望まれる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、これまで全く事業所内で起こった事実はない スタッフにおいては、逆に利用者からの暴言・暴力を受けることが多々ある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業が必要とされた事例もあり、独自の研修も行っている 自己学習が出来るような資料もスタッフに提供している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項や運営規定などの必要書類を十分に説明し、理解・納得の上で署名捺印をして頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意思表示が出来る利用者からの意見、不満、苦情については十分に傾聴し、誤解や語弊のないように説明をしているが、認知症の進行状態では、説明をしても理解をして頂けない場合も多い	職員は家族の訪問の際に要望や意見について直接聞き取りを行っている。ホームではクラウドサービスを活用しており、家族はスマートフォンやタブレットなどで入居者の日頃の様子を写真や動画で見ることができ、安心感に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員には、常に意見や提案があれば、その都度申し出てくれるように話をし、職員会議やケア会議でも意見を聞き検討をしている	管理者は、職員会議に限らず職員と話す機会を持つよう日頃から努めている。また、職員の研修や学びの機会についてできるだけ実現できるよう対応したり、家庭の都合へ配慮したりするなど、人材育成だけでなく働きやすい職場環境づくりに向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務態度等を把握した上での給与水準にしており、スキルアップも支援している。職員が勤務しやすい時間等の相談に応じている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には、参加を促進しており、人員配置の関係上、全員が一度に同じ研修を受けることは難しいので、研修を受けた者が必ず報告をし、知識の共有を図りながら、新人の教育にも努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島GH連絡協議会を中心に、特に南島原支部の研修会などへも積極的に参加し交流を持ちながら共に学び研鑽を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所される前に、ご本人と向き合い伺うようにしているが、認知症の進行状況次第では、難しい場合も有る その場合はご家族からお話を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用までの経緯やその方の生活歴、ご家族の希望などは必ず入所前に伺うようにしている また、入所後にもその都度、伺うようにしておりケアプラン作成時にも相談し十分納得した上で、サインを頂いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅の担当者も含め、その方のニーズを見極めながら入所がいいのか、または他のサービス(通所など)がいいのかを、事前によく話し合うようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本来の家族のように、日常生活において一緒に生活をする中で、喜怒哀楽を共にし、利用者から昔話や歌や知恵などを引き出し、そして学び、出来ないところを支援していくようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力なしでは、成し得ないことであり、行事への参加お願いしたり、面会時にもゆっくり過ごしてもらえる様に支援をしている また、日々の暮らしや心身のケアに至るまで相談をしながら支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の同伴による外出や外泊に加え、ホームからスタッフが同行して屋外へ外出したり、散歩したりすることで利用者の視野がホーム内だけに留まらないように気をつけ支援している	ホームでは定期的に家族会が開催され、食事会や介護保険法などの法改正の折に説明、並びに入居者の状況について伝えるなどなされている。その際にお盆やお正月の外泊や墓参りなどを依頼し、家族の協力を仰いでいる。ホームには入居者の友人や知人が訪れることもあり、これまでの関係が継続できるよう職員は対応に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は利用者皆さんに、楽しんで出来る体操やレクへの参加を促し、居室に閉じこもらないように声かけしている 利用者同士も交流が持てるようにスタッフが潤滑剤の役割になるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、ご家族の精神的不安にも配慮しつつも相談していただけるよう、気軽に連絡をして頂ける体制を取っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居宅の担当者や本人やご家族からの聞き取りにて生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するようにしている	職員は入居者の思いに寄り添うよう努め、日々の支援の中でその方の性格や様子などを把握し職員間で情報を共有するとともに、統一した支援となるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅の担当者や本人やご家族からの聞き取りにて生活歴や生活環境、サービス利用の経過等についても把握するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月の職員会議において、全員で検討し総合的に把握するようにしている。 状態変化があれば、その都度話し合うようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からの希望を取り入れながらケアプランに同意を頂き作成しており、ケア会議等で職員全員の視点で、検討する機会を設けている また入所時や状態変化による見直しなども臨機応変に対応している	ホームでは、入居者の状態変化時や要介護認定更新毎に心身の状態についてアセスメントを行い、現状に沿った内容で介護計画が立案されている。サービス作成担当者は面会毎に家族の介護への意向を確認し、課題解決に繋がる長期、短期目標を設定している。職員は入居者本人の暮らしがより良いものとなるよう日々取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現在リアルタイムで各自のスマホから利用者様の状況が把握できるようにしており、申し送りも確実に行われ共有できている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況、その時々要望に応じてサービスの変更が可能である		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々の協力体制や民生委員さんとの交流、特に年一度の総合避難訓練においては、消防や消火設備会社の方々の協力を頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれの主治医との連携を取りながらも、緊急時の対応などが可能 過去には訪問看護の利用者もおり適切な医療のバックアップ体制も支援している	ホームではクラウドサービスを活用し、入居者の体温・血圧・脈拍・呼吸などの記録を主治医へ報告している。入居者は以前からのかかりつけ医を継続して受診することができ、ホーム協力医への受診や入居者の状態に応じて往診に来ていただくなど、連携体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を取り、常勤の看護師が利用者の健康状態を把握するようしており、24時間の対応を可能としている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	特に協力医療機関で有る、泉川病院においては地域連携室が設けてあり、利用者の状態や早期退院に向けての情報交換や相談に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び終末期に向けた指針を作成しており、本人やご家族にも説明の上、同意を得て書面として残してホームで出来る限りのケアを主治医の指示のもと行うが、医療的な処置が必要である場合は、本人やご家族と主治医を交えての相談を行う	入居者の重度化や看取り期に際し、ホームでは家族への説明を行うとともに家族・医師・主治医で今後の支援方針について話し合いを行っている。ホーム看護師を中心に家族の希望に沿った看取りとなるよう努めており、全職員が看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の救急救命士の救命救急講習を受けており、急変や事故発生時に対応できるよう備えている 消防署主催の救命講習会や自衛消防隊へも参加し、訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	島原消防署及び地元消防団、消火機器業者、近隣の方々の協力を頂きながら行う、総合避難訓練に加え、自主避難訓練を行い日ごろよりの災害対策に取り組んでいる	ホームでは運営推進会議の際の避難訓練の実施や玄関外への消火器の設置、消防学校での訓練参加など、災害についての意識を高めており、緊急通報装置の連絡先には近所の方の登録も行われている。現在、避難訓練実施記録が行事計画書内に収められており、訓練後の検証が見えにくい状況が窺われる。訓練実施結果の検証は次の消防訓練の実施に向け重要な事項となるため、日頃のイメージ訓練に繋がるよう書式の再整備が望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応については、出来るだけの配慮をしている また、記録についてオンラインでの記録としてリアルタイムに管理し個別に記録を取っている	職員は研修会への参加や職員同士で話し合いを行うなどし、見識を深めるよう努めている。管理者は職員から時折何気なく発してしまう不適切な言葉遣いについて注意を促しており、入居者の尊厳遵守に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の掃除や体操のほか、日常生活においても出来る事は声かけし働きかけながら自己決定の支援に努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の行動は、一人ひとりのペースを大切に出来る限り希望に添っての支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者からの申し出には随時対応し、その方に応じて美容室または理容室までの付き添い介助をしている 自ら訴えの出来ない方についてはスタッフが整容に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューは決めておらず、自家栽培の旬の野菜などを取り入れ、食材の刻みを手伝って頂いたりして準備に取り組み、片付けにおいても、職員だけで行わず協力をして頂くように声かけをしている	ホームでの食事は大まかな時間は決まっているが、入居者のその日の気分などに合わせて柔軟に対応されている。食事形態はミキサー食・刻み食などその方に適したものが準備され、職員の働き掛けによって今まで口にされなかったものが食べられるようになった事例もある。入居者の中には下膳を行うなどできる範囲で家事に参加されている方もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に応じた提供が出来るようスタッフ全員が配慮しながら支援をしている 食事等の摂取状態は毎食記録し、特記が必要な場合も記録に残している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは日常的に支援しており、義歯については洗浄など、管理が出来ない方についてはスタッフがお預かりし清潔保持に心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間365日の排泄チェックを記録しており、出来るだけ一人ひとりの排泄パターンをつかみ、トイレ誘導を行うなど失禁やオムツ使用の軽減に努めている	ホームではクラウドサービスを活用しており、職員は各自所有のスマートフォンで入居者の排泄パターンの把握を行い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。消化に良い繊維質の食材を用いた食事の提供を行い排便コントロールを行うほか、排泄の失敗についてはさりげない声掛けをし、誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康食を心がけ、水分の摂取量も考慮し食事においても食物繊維を多く取り入れている。また1日の中で腸の働きを促すよう適度な運動を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日提供しており、最低週3回の入浴が出来るように、利用者の体調や希望・タイミングをみて支援している	入浴は週3回以上設けており、入浴前には血圧や体温の測定などの健康チェックを行い、入浴可能かどうかの判断を行っている。入浴を拒否される方については日にちの変更や対応する職員を交代するなど臨機応変に対応されている。入浴後は皮膚の状態を確認し、処方された保湿剤を塗布している。職員は季節に合わせて柚子を湯船に浮かべるなど、入浴が楽しみとなるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室になっているので、いつでも居室で休息が取れるようにしており、また共有の部分に置の間もあり、自由に使ってもらえるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の主治医からの指導と薬局からの文献を元に、個別にファイルをし、スタッフ全員が把握し、利用者の能力に応じて服薬の支援を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所時に事前にそれまでの生活歴や趣味などをお聞きし、入所されてからの暮らしに活かせるよう努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や体調をみて、屋外への散歩などへスタッフが付随し出掛けられる体制があり、御家族へも外出や外泊の支援もしている 事故防止のため、1人での外出は出来ない	職員は気候の良い日などにホーム周辺を散歩しており、入居者の気分転換を図っている。散歩の際には近所の方との挨拶や野菜をいただくなどして交流を深めており、買い物を楽しむこともある。また、定期的に職員が美容室への付き添いを行うほか、家族とともに外出するなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は事務所にてお預かりしているが、外出時にお金が必要な場合は利用者の状態に応じて職員が所持している場合もある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在までの利用者で自らTELを出来る方はなく、取次ぎにて支援している また、手紙のやり取りについても郵便の受け渡しは行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	住宅街ではあるが、特に不快な音はなく夏にはヨシズにて涼を取り、暗くならないように採光にも心がけている 四季折々の花を飾り、安らぎのある居心地の良い環境作りに取り組んでいる	ホーム共用空間には日当たりの良い場所や畳の間に腰掛けて会話を楽しまれる方や入居者が作製した貼り絵が掲示されるなど、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	安全面に配慮し居心地の良いスペースを提供しホールや畳の間もあり、自由にくつろげる場となっており全個室なので自室で過ごす事が出来る		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者からの希望が難しい方については、ご家族と相談をしながら持ち込みをして頂いている	居室には入居者の身体状況に合わせたマットレスや使いやすい高さのベッドが準備されている。室内にポータブルトイレは設置せず、職員がトイレへ誘導しており、臭気対策に加えて後片付けなどによる職員の負担軽減にも繋がっている。また、畳の居室が数部屋用意されており、窓にはカーテンではなく障子が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを設置したバリアフリーの建物で、利用者の目線に合わせたトイレやお風呂の入口に目印をし、危険物についてはスタッフで管理しながらも自由に出入できる環境づくりを行っている		